

檜川地区タウンミーティング議事録(要旨)

○日時 2025/11/12 19:00～20:00頃

○場所 檜川支所

○参加者 16人

○説明者 市長、企画政策部長、建設部長、こども教育部長

○議事録(要旨)

※個人情報や個人が特定される内容などは省略しています。

市長

皆さんこんばんは、市長の百瀬でございます。

本日は1日のお疲れのところ、また非常に寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。タウンミーティングをこれから開催させていただきます。最初に10分ほどお時間をいただきまして、今の檜川地区の状況や財政のお話を差し上げたいと思いますが、その前に一昨日でありますけれども、檜川小中学校の方で、クマによって網戸、窓が壊されていたという被害がありました。人的な被害がなくてよかったですけれども、今はもうあちらこちらでクマが出ており、檜川地区だけではなくて大門の田川町という住宅街の中でも出でおりますので、どういうふうに対応していくか問われているという時代でありますけれども、子どもたちの安全は皆さんの力を借りないと守れないというところがありますので、見守り等もご協力をいただきますとともに、皆さんもですねクマの被害に遭わないように気をつけていただければと思っております。

※(省略)檜川地区の説明(別添資料)

※(省略)令和8年度予算編成方針について説明(別添資料)

ここから要望事項に入りますけれども、まず区長さんからいただいている要望事項がございますので、2点そちらについてお答えをしたいと思います。

まず一つが、檜川小中学校の在り方であります。やはり生徒の減少が続いており、現在の児童・生徒数は82名ですが、次年度が2名、その次は3名ということで複式学級になる可能性も高い。そういうところで、檜川小中学校が存続できるよう、小規模特認校として市内の

みの受け入れでなく、県内県外まで範囲を広げ、児童生徒が全国から集まってもらえる仕組み作りができないか、また複式学級になった場合の市の見解についてもご教示いただきたい、そのようにいただいております。

檜川小中学校でございますが、小中の義務教育学校、そして小規模特認校という位置づけになっておりますけれども、今年も檜川地区外の市内から児童の方が来ていただけないか、そんなことを願い園長に説明をしたり、学校の見学会を行い、また動画を作つて学校の魅力のSNS発信をしております。また移住定住係とも協力をしながら受け入れ体制を進め、今ありとあらゆる手段を検討しています。そしてやはり通学の手段というのが結構皆さん心配されますので、ステップくんをうまく組み合わせながら行き帰りを送迎できるようにならないか、そんな検討をしているところであります。

また複式学級となった場合の対応でございますが、教育の質が損なわれることなく対応をしていきたいと思っております。人数にもよりますけれども、市のお金で学校の先生を配置することもできますが、今大きな壁が、学校の先生がそもそもいないことがありますけれども、ここは人数を見ながら進めていきたいと思います。そもそもありますけれども複式学級にならない、そういう児童数を、この学校の魅力を高めて呼び込むといったことが必要なのかなと思っております。

今教育の多様化も進んできており、子どもの育て方、学ばせ方というのが多様化しております。そういうものがマッチできるような学校を作つていただきたいと思っております。繰り返しになりますけど、そういうときに通学をどうするかというのは、大きな壁になっていることも承知をしておりますので、そういう両面を含めて進めていきたいと思っております。

それでもう一点が、空き家の対策であります。こちらは全市的な傾向でありますけれども、空き家対策に向けた地域の取り組みに対し、補助制度も含めて検討をしていきたいとそういうふうな形があります。檜川地区の空き家の数を捕捉しておりますけれども、空き家はあっても、使える空き家がどれくらいあるかというのは非常に問われるところであります。私どもの空き家に関する移住者への補助としましては、移住定住促進居住環境整備補助金という制度がありますし、奈良井区では東京大学とともに連携をしながら、国の空き家対策モデル事業を活用して取り組んでおります。そしてもう一つ、移住定住のお試し住宅でありますが、教員住宅をお試し住宅として活用していく等、ありとあらゆる点を含めて、空き家の活用を進めていきたいと思います。この前、平沢区では空き家を改修した建築士の方が賞を

取ったということもございますし、奈良井区でも空き家の活用がいろいろ進んでおります。空き家を活用しながら人口増が図られるようにしていきたいと思っております。

もう一つの大きな事業としましては、旧檜川中学校を、新しい合板を作る工場として国の交付金も活用しながら、竹中工務店や伊那谷の事業者の皆さんと進めております。そういうところで雇用をきちんと呼び込んで、そして働く方が住んでもらうのも一つですし、そもそも地域の魅力としまして、奈良井、木曽平沢、贊川といろんな動きがありますので、その動きをうまく捕まえながら、奈良井は観光、平沢は漆器、そして贊川は関所亭など今元気で活動していますので、そういうものを活用していきたいと思っております。

駆け足でいろいろお話を差し上げましたが、区長さんの方で何か追加のお話等ありましたらお願ひいたします。

市民

先ほどの学校の件ですけれど、複式学級になる可能性が出てきたということで、地域として負のイメージというかマイナス思考になり得るような雰囲気なのですから、逆に小規模校のメリットや良さをいかに打ち出すかという部分が見える形になってくれば、逆にそういう学校に通いたいというご家庭もあるはずなので、ぜひそういった小規模校の魅力を、いかに特徴ある学校づくりができるのかっていう知恵をですね、やはりいろんな情報持っている行政から知恵をお借りしたいなっていうことと、やはり地域だけでなく学校も魅力あるものを作っていくようにするにはどうすればよいのかという部分は、時間をかけてでもやっていかなければいけないと思います。いずれにしても学校は地域としてはどうしても残さないといけない大事な場所ですので、今、統合など学校がどんどん無くなり、非行者がいっぱい増えてくるというのは日本中の話ですけれど、小さくても生き生きと子どもたちの喜ぶ学校づくりをしなきゃいけないのが基本ですので、子どもたちのために地域で何ができるか、そういう点で知恵があればお貸ししいただきたい。

もう一点、空き家に関わる件で、空き家も平沢では80数件あるのですが、大体もう空き家になってから長いものですから、改修してすぐには費用がかかりすぎるという部分があり、逆にこれからそういう空き家の痛みが激しくなっていく前に、空き家の解体補助みたいな部分をぜひ検討していただければと思います。この2点だけお願ひします。

市長

はい、ありがとうございます。まず最初の学校の話でありますけれども、やはり小規模特認校として小規模の良さをどういうふうにPRしていくかというのは非常に大事でありますし、小規模ゆえにどういう魅力を発信できるか、例えば今はふるさと学習で漆器を使ってお盆を入学から卒業まで、大事に使うといった取り組みを進めておりますので、学校の特色を高めるのと、様々なところに連携をしていくというのが、今度必要になってくるかと思います。

実は重伝建の角館がある仙北市も、やはり廃校になった学校にインターナショナルスクールが入ってきて、いきなり60人ぐらいの学校になっていくというお話がありますので、今の時代ですと例えば、英語教育にも特化をして力を入れていくとか、何か尖ったところを磨いていかなければならぬのかなと思っております。

そして空き家の話でありますけれども、令和3年の調査で208の空き家があります。ただやはり、先ほどお話をした使える空き家とそうでない空き家というのはありますし、特に下水道に繋がっていないと、空き家があってもなかなか入れるという状況にならないのが大きなハードルであります。そういう面も含めまして進めていきたいと思います。空き家補助金については制度がありますので建設部長からお話をします。

建設部長

私の方から、空き家の補助金制度の内容をお話します。1点が塩尻市の移住定住対策として、制限はありますが、土地の流動化をさせるということで、解体補助金50万円の補助が補助率2分の1で出るようになっています。この補助金を使うと、先ほど言った土地の流動化ということで空き家バンクへ登録していただいて、第三者の方や移住を希望する方たちに斡旋をしていくといった制度、こちらは登録していただくことが必要ですけれども、そういった補助金があります。

またもう一つ、建物の耐震対策ということで、旧耐震基準で建てられた建物については県の補助金があり、その中でも一部耐震基準を満たさない建物を取り壊すときに、今の制度では最大83万8000円出るような状況ですので、そういった制度の利活用をしていただければと考えております。

市民

今の空き家の耐震・解体の補助は、個人でも耐震化となっていない住宅の解体に対しても

補助金が出るのですか。

建設部長

その通りです。旧耐震基準、昭和56年以前に建てられた建物で、耐震の調査が必要ですけれども、その調査をして耐震がないということであれば、個人の建物でも補助金を活用することが可能となっております。

市民

ありがとうございました。

市長

それでは皆さんから、いろいろなご意見をいただきながらお答えしていきたいと思います。

市民

小中学校のことで、重複あるいは少し違う視点かもしれません、このタウンミーティングをするにあたり、区長は教育者ではないので、今日もおいでですけれども地区内にいる元校長先生や校長先生と勉強する機会を作りました。我々は先ほどもあったように、複式学級になることにマイナスのイメージというのがあって、親御さんも中には大規模校のところに行きたいというような声も実は聞くこともあります。

それが悪いということではなくて、小さくなってしまったんですが、それを生かすメリットは何かないかという勉強会をさせていただきました。その中で、このマイクを先生に譲りたいのですが、45分の授業を40人に1人の先生をあてるのか、5人の子どもにあてるのか。単純に考えると、それは小規模の方が子どもにとってはいいっていうことがわかるので、そういうことがメリットだとPRすることができないかなと聞いて思ったので、その辺をプロの視点でお願いします。

市民

今、文科省でも個別最適な学びということを言われて、県教委でもウェルビーイングと言っていて、要するに自分に合った学び方を自由に選べるという教育の方向が、目指されている方向だと思います。そういう点から考えると、少人数、少なくなりすぎるのはともかくと

して、人数が少ないっていうことはピンチではなくて、逆にそういう教育を進めていく上でチャンスになりうるんじゃないかなというふうに思っていることが一つです。それから、檜川地区の子どもたちだけではなく、市内の子どもたちにとっても、その多様な選択肢があるっていうことは、非常に恵まれているというか、そういう子たちにとっても、ここへ来られるチャンスがあるっていうことは、不登校に限らず例えば大勢の前では思ってることを10分の1も言えなくても、少人数だったら半分ぐらいは言えるというような子たちにとっては、そういう学校がチャンスになり得るということを思って、それは市長の考えている多彩なまちという、まさに多彩な学校を選べる、そういう教育の制度としても、とても意味のあることではないかなと思い、ぜひそういう学校を地域でも一緒に作っていく、それが塩尻市教育委員会で先駆けて取り組んでいるコミュニティスクールの本来の狙いでもあったと思うので、ぜひ地域とともに考えていくことが大事ではないかなと思った次第であります。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。今先生方のご知見からもやはり、学びの形が多彩化・多様化していますので、そこが檜川小中学校の良さだと思っておりますし、小規模ならではの良さというのをしっかりとPRしていきたいと思います。私どももYouTubeのショート動画で学校の良さを紹介しておりますし、またこういったアニメーションを使いまして、暖かみのある校舎、みんなが一緒に給食を食べるランチルーム、四季を感じる学び舎、漆器など地域の文化を学ぶ、少人数できめ細やかな授業など、そういったものを唱ってPRしていますけれども、まだまだもしかしたら周知不足でこういった特色を知らない方がたくさんいらっしゃると思いますので、そこは私ども様々なチャンネルで、こういったものに長けた職員がいますので、しっかりとPRをしながら学校の魅力をポジティブなイメージで伝えていくというのが非常に大事だと思います。

複式学級とかそういう言葉でネガティブなイメージになるんじゃなくて、前向きなイメージになるような形で進めていきたいと思います。

市民

校長会など教育委員会側で、檜川小中学校は特認校でこういうことができるよっていうことをみんなが理解をして、組織的にぜひPRするべきというふうに思っているので、そのあたりをこども教育部長さんにお尋ねしたいです。

こども教育部長

おっしゃるように檜川地区につきましては、小規模特認校に選ばれた時点から、小規模で本当にきめ細やかな教育をやっていけるような地域にしていきたいという皆さんのが思が伝わってこの取得に移行したという経緯があります。例えば複式学級になるには隣り合ったクラスが8人を切ると小規模複式学級という形になり、2クラスが1クラスになり県の教員の配置が2人から1人になる等確かに負のイメージはあるかもしれません、それだけではなくて、市内の学校を見ますとほとんどが30人前後の児童生徒に対して2人の先生で教えている中、檜川の子たちは10人の児童生徒に3人の先生たちが入って授業をやられていて、非常にいいなと思っているところです。これを教育委員会だけが承知しているのではなく、しっかりPRをしていきながら、なおかつ檜川は非常に地域の皆さんのが協力していただける地域なので、そういうった方も含めて子どもの教育をサポートしているということをしっかりPRをさせていただいて、さらに先ほど組織的にとのお話がありましたが、市の移住定住や観光部局とも連携をしながら、観光PRに行くときに奈良井宿のあるここに小規模特認校の檜川小中学校があります、こういう教育をやってますということもPRをしていきながらやっていきたいと思っております。市長部局問わず、教育委員会もそのように思っておりますので、しっかり来年以降やっていきたいと思います。よろしくお願いします。

市長

教育長もこの学校の立ち位置やそういった特色や良さも十分承知をしておりまして、教育長自らも発信しておりますので、ご理解いただければと思います。

市民

檜川小中学校の学校運営協議会です。よろしくお願ひいたします。私の方からお聞かせいただきたいことがいくつかあるのですが、教員の基準というのが、1年生合わせて例えば8名以下になると複式になるということをお聞きしております。例えばそれが、9名になれば、複式にはならないという認識でよろしいですか。

こども教育部長

はい、認識としてはその通りなのですが、実際に教員を配置してみて、基本的には5月1日現在で学校基本統計調査というものがありますので、そこでの人数が全てであり、その時

点でその人数が確保できていれば、教員の配置はしていただけるということになります。

市民

それで例えば途中で1人が転出してしまった場合は複式解消になるのでしょうか。

こども教育部長

5月1日までに転出してしまえば教員が引き上げられてしまうということはありますけれども、5月1日時点の人数で配置された職員につきましては、基本的にはそのままになりますし、その時点で市の講師も配置されていますので、檜川については他の学校に比べると、もし複式になんでもならなくとも、手厚い教員が配置されていると思っていただいて結構です。

市民

ありがとうございます。理解ができました。それで、先ほど区長の方からもいろいろお話をあったと思うのですけども、檜川小中学校が複式学級になるという、そういう期を迎えております。繰り返し申し上げますが先ほどと重複しますが、今現在保育園の年長さんが2名、年中さんが3名、年少さんが8名だそうですので、来年再来年と複式学級になってしまふ期が生じてしまいます。それで複式のメリット・デメリットがやはりあると思いますが、一番大きいデメリットというのはパブリックイメージで、学校の皆さん、小規模特認校で通いたいとか、今通っている保護者とか児童生徒、そういったところでネガティブなイメージを持たれてしまうと思います。そうすると教育の質が落ちてしまうのではないかと懸念もありますし、今いる人たちが流出してしまう恐れが生じるのではないかということは考えております。

もう一つは、小規模特認校を使って留学する方が減ってしまうのではないかということを懸念しております。今は市内からしか小規模特認校の募集をしていないですが、長野県内や全国に枠を広げていただいて、いろんなところから児童生徒を呼び込んでいただけるような仕組み作りをぜひお願いしたいと思っております。

それと、檜川小中学校で取り組んでいることも申し上げたいと思います。今ですね、体育とか、音楽、道徳、朝の会や帰りの会、掃除とか給食を連学年合同で行っているそうです。これは複式に備えたことでもあるのですが、縦割り班という形でいろいろ活動しているのですが、小中学校一緒に活動しているものですから、中学生の子が小学生に教えたり等、非常

に良い成果が出ているということもお聞きしております。それと学力だけじゃなく非認知能力が非常に高まっているということを学校コーディネーターの先生からもお聞きしております。非常に成果が出てきているということも改めて申し上げておきます。せっかく出来上がってきたしているものですから、ぜひこれを10年後、20年後に存続できるように、市の方のお力添えをいただきながら、ぜひお願いしたいと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。小規模特認校ですが、市外県外からも希望があれば受けることが可能でありますので、そういうPRもしていきたいと思っておりまし、全学年合同の取り組みや、認知能力非認知能力のお話もありましたので、そういうところでの学び、いわゆる学習以外の部分のPRも必要だと思っております。そういう部分は皆様方が一番よく感じていらっしゃると思いますので、上手に発信をしていきたいと思っております。

今こどもの数のお話がありましたが、今年の3月31日現在で0歳が3人、1歳が7人、2歳が4人、3歳が8人、4歳が4人、5歳になると2人という状況になっています。やはり他の地域から通って来ていただいた方が、学校としてはより意義あるようになっていきますので、そういったところにしっかり周知をしていきたいと思います。

市民

はい、ありがとうございます。もう一つだけ申し上げたいのですが、今の学校が小規模特認校になってから、移ってこられる方の多くのケースが、例えば他の小学校で問題を抱えて不登校になってしまったりとかしたお子さんが多かったです。そういう子も檜川小中学校に来たら学校に通えるようになった子もいらっしゃいます。非常に大きな成果だと思います。中にはそのまままた不登校になってしまった子もいるのですが、そういう成果も出ております。そういう成果ももっと対外的にアピールしていかなければいけないと思っているのですが、それ以外の例ええば、私は奈良井宿観光協会もやらせていただいていますが、観光地としての魅力を感じていただいて、家族で移り住んでいただいて、観光業を開始していただいた方もいらっしゃいます。先ほど百瀬部長さんの方からも言われたように、そういう形ですね、観光とうまくいろんなことを繋げることによって、人口が増えしていくんじゃないかな。私の考え方でいうと、観光による地域づくりという形になると思うのですけれども、そ

ういったこともより積極的に繋がりを密にしてやってきたいと思います。いろいろとご相談をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

市長

ありがとうございました。今、学びのお話がありましたけれども、やはりちょっとデリケートな部分は様々な事情に配慮をしていきながら、発信はしていかなければならないと思っておりますのでご理解いただければと思います。奈良井の観光とかの取り組みは、外国の方と授業の中で交流するようなこともありますので、そういう取り組みも進めていきたいなと思っています。

市民

地域の発展というのは、将来の人材であるこどもたちを育てるということは非常に大切だと思います。それについては今活発な意見が交わされまして、学校を中心としていろんな意見でぜひ進めさせていただきたいと思います。それとは別に、先ほど市長がA4縦の資料を説明いただきましたけど、やっぱりネガティブなデータが載っております。この中で13番の、日常の生活の中で頼りたいことということで、この中に見守りや安全確認の声かけという部分があるんですけど、私たまたま社協の役員をやらせていただいておりまして、高齢者とか1人親、1人世帯の方というのはやはり見守りが普段一番大切だと思います。これにつきましては、郵便局の職員の方や町会でも組長さんとか、やはり同じことを違う組織の縦割りでやってると思うのです。みんな同じデータを見ているのに、縦割りの組織であるために、組織のトップで各データが止まっていると思います。民生委員などいろんな役割で制限がございますが、何とか横に情報を繋げてみんなでデータを共有できれば、もう少し見守りが安心安全にできるのではないかと考えていますが、この点をぜひ考えていただきたいなというふうに思います。

市長

はい、大変大事な意見です。今、個人情報保護の高まりの中で、民生児童委員の会議や様々な場面で、もっと情報を知りたいんだけれど知ることができないというお話を伺いますので、本人のきちんとした承諾を得えるような仕組みを構築して、オープンにしてもいいデータというのはオープンしていかなければ、今後地域の福祉や見守りが進んでいかないと思ってお

りますので、何か対応を考えたいと思っております。私もこの地区で消防団をやっていたときは、誰がどこで寝てるかとかそんなところまで情報を持っていたので、そういうことを考えると今は本当に個人情報の壁というのは厚くなってしまったと思っています。逆に今度、そのようなデータが有事の際、万が一のときは一番役立つので、この意見はいろんなところでありますのであり方を考えていきたいと思います。檜川地区ですが先ほどお話した通り、非常に高齢者の多い状況でありますので、そういうところでモデル的に進めていける、近所づきあいの状況は良い地域でありますので、そういったメリットを地域づくりに活かせるような仕組みを考えたいと思います。ありがとうございます。

市民

もう一点お願ひします。先ほど市長さんの方からも話が出た2拠点住宅の住宅補助金を活用して、1ヶ月か2ヶ月お試しで入っていただいた方がいます。それで今後、先ほどの小中学校の話の中でもあるように、外から移住してきたいという人が、住む場所がなければ来たくても来てもらえないということが何年か前にそういう話があって、学校へ通いたいけど住むところがなかったと言ってやめてしまったという人もいたという話も聞いていたものですから、今後ですね、この2拠点住宅というのはそもそも国で毎年やっているかどうかわからぬのですが、平沢に限らずに贊川や奈良井で、改修して使えそうな、空き家になって時間の経ってないような空き家を有効に活用するような展開を、3区長で受け入れ体制を本気で考えなきゃいけないと考えておりますので、ぜひ今後毎年1件ぐらいはできないものかっていう思いがあって、やっぱり地域が受け入れ体制を真剣に考えてますよっていうことも一つのPRにもなると思いますので、形はどうあれ、行政の方もいろんな補助金を集めてきていただいて、活用させていただければありがたいなと思います。

市長

はい、ありがとうございます。やはり使える空き家をしっかりと見極めるということが非常に大事だと思っております。誰が管理するかわからないような空き家も出てきてしまっております。そういうものは私ども行政よりも住民の皆さんのが一番よく知っていますので、力をいただきながら進めていきたいと思っております。

お試し住宅は北小野地区で効果を発揮しております。北小野地区でお試し住宅で住んだ方が家を建てて住んだり、そういう動きが出ておりますので、そういった動きがこの地区で

も広まっていくことを願っていますし、先ほどの積み重ねになりますけれども、働く場所があると、職住近接で本当に働くところが住むところに近いのが地方都市の魅力でもありますので、そういうメリットを打ち出しながら、住む人そして子どもの数が増えていけばいいと思っております。

市民

観光資源として、市内には人気の山百選に選ばれた霧訪山がありますし、近くでは、鳥居峠から繋がっている峠山という、展望がよくて難易度も優しい山があります。もう一つ、経ヶ岳という山があり、今年の春に植樹祭をやった権兵衛峠の駐車場が確保拡張され、7月には土曜日が100台、日曜日は約50台くらい県内外から車が来正在して、とても歩きやすい山で、南箕輪経ヶ岳友の会がクラウドファンディングでお金をだいぶ集めて、7月の花の時期にはすごい人でした。私も山が好きで、先週も友人と行って、健康のためにも気分転換にも最高で、私の身の丈に合った山が今経ヶ岳じゃないかなと思っています。茶臼山が2650mで、塩尻市で一番高い山とのことで、合併する前はからたきの峯が一番だったけれど、合併してから毎年募集して、塩尻市内や伊那の人たちも一緒に登ってくれているのですが、私の年齢になると経ヶ岳が良いので、支所にもパンフレットを持っていき、紹介があったら問合せしてもらうといいですよと言って宣伝はしています。ぜひ伊那の人たちも、境が塩尻市檜川地区が伊那と箕輪と隣接していますので、ぜひまた会議等の機会があったら協力し盛り上げていただき、帰りには奈良井宿で観光してもらって、山登りもいいよということを広められればと思います。

市長

ありがとうございます。経ヶ岳ですが、今非常に人気のある山になっております。奈良井区で植樹をやったときにちょうど伊那の市長と南箕輪村の村長と一緒にまして、経ヶ岳の話をしたのですけれども、今霧訪山が日本で低山のランキングの中でトップに選ばれて、今本当にすごくぎわいを見せております。経ヶ岳も150台ぐらい車が停まっているということですので、私ども塩尻・伊那・箕輪で権兵衛峠の関係で観光協議会を持っておりますので、またそういったところで、どこの自治体がどうということではなくて、自治体が連携をして進めていくことが一番良い効果が出ますので、しっかりと情報共有をしながら、PRしていきたいと思います。山は本当に健康にもいいですし、観光的な資源もあります

す。奈良井宿や伊那の収益にもなりますし、そもそも歴史がある権兵衛峠を見直すきっかけになるかと思います。ありがとうございます。

市民

今度は観光協会役員としてよろしくお願ひいたします。奈良井宿ですが、今大変多くのお客様にお越しいただいております。連休ですとか普通の土日でも道路が混雑してしまって、駐車場待ちの渋滞ができるような状況になっております。国道にまで渋滞してしまって、例えば地元の人が買い物に出ても、帰ってこれないような状況も生じております。観光客も駐車場入るために1時間とか待つような状況で、観光地としては非常に嬉しい悲鳴であります。

ただ私が感じておるのは、観光公害と言われるところもありますけど、もし駐車場がもっとあれば、もっとお客様に喜んでいただいて来ていただけるんじゃないか、そうなるときっと移住者も増えるでしょうし、観光事業者の収入も増えるんじゃないかと。そうすれば、先ほど申し上げたように小中学校の児童生徒は少ないんですけども、これも拡充していくんじゃないかと。まさにこれ観光地域づくりに直結することなのですが、市の方にお願いしたいのは、実は河川敷に土地がいくつもあり、ただ県の所有という形であり駐車場としての利用ができないのです。私も河川敷をどうしたら駐車場として利用できますかと県に問い合わせたのですが、そうしたら、例えば個人で買っていただくことは不可能だけれども、乗り越えなきゃいけない壁はいくつかあるのですが、市の方に買っていただく分には構わないとことで、市の方で整備後、地目変更をして、河川敷から変更していただいて駐車場利用をしていただくような形でだったら大丈夫じゃないじゃないでしょうかということで、ご指導を受けたものですから、また市の方の財政も厳しいとは思いますけれど、奈良井宿もそうなんですけれど、ぜひいろんなところで河川敷を有効利用して、もっと観光客の方に来ていただけるようなインフラ整備をしていただくと、持続可能な学校ができますし、持続可能な奈良井宿になるんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひご検討いただければと思います。

市長

ありがとうございます。河川敷の関係は前からもお話をいただいております。最近の雨の降り方とかを見るとリスクも当然あります。そういうところを配慮しながら、検討を進めいかなければならぬと思っております。進め方でありますけれども、当然市の財政事情

のお話がありましたけれど、例えば奈良井の駐車場で収益が出ていれば、そういうものを積み上げて将来的に整備をしていただくとか、民間と一緒に進めていく手法等もあると思いますので、検討させてください。なかなか河川敷はハードルが高いのも事実であります。そこで万が一、車が流されたとか人の命に関わるようなことがあると大きな責任もあり、観光地そのもののイメージを壊してしまうことになりますので、そういう面では慎重に進めていきたいと思っております。

市民

最近は空き家の対策とか移住定住の話がありますが、今日建設部長が来ているのでぜひお願いをしたいなと思うのが、檜川地区は奈良井、平沢、贊川それぞれ市営住宅があります。個人のものを改修してお試し住宅とするのではなくて、既にある市営住宅で各地区1世帯分でいいので、お試し住宅用に確保をし、移住定住係でPRをして、ひと月単位なのか1週間単位なのかその辺はおまかせしますけれども、あるものを使ってぜひお試し住宅をやってみてほしいなというふうに思います。これは提案です。

市長

ご提案ありがとうございます。市営住宅の入居状況を見ながら、空いているところがあれば活用していくのが一つと、市営住宅という制度に乗っている住宅でありますので、お試し的に使えるかどうかというそもそも論がありますけれども、それぞれの地区でそういうものに活用するのも必要なかなと思っております。ご提言として承ります。

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは今日タウンミーティングを開催いたしましたところ、本当にいろいろな意見をいただきましてありがとうございます。学校のお話に非常に多くの時間を使いましたけれども、学校が地域にとってどれだけ大事なものであるか、そういったものも感じるタウンミーティングでございました。その他、福祉の問題等々ありますけれども、この地区は非常に大きな魅力があるところでございます。今人口も住んでいる人数で物事を考える時代でなくて、やはり交流人口、関係人口でいくとおそらく市内で一番人口が多い地区が檜川地区であります。当然奈良井宿という大きな観光地もありますし、漆器の産業で繋がる人、街道で繋がる人、様々な人がいますので、そういういろいろな関係性を作りながらこのまち、地区を発展させていくことが非常に大事だと考えております。そのために皆さんのがこういったご意見が必

要でございますし、私も当然生まれ育ったところでもありますし、さまざまな場面を通して檜川に顔を出していますので、ぜひ見かけたらお考えを伝えていただければと思っております。皆様方の考え方一つ一つの積み重ねでよい街をつくっていきたいと思っておりますので、引き続きいろいろなご意見をいただくとともに、私どももそういったご意見を大切にしながら、檜川地区の活性化そして塩尻市政を進めてまいりたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。